

白丸調整池ダム 放水の汚泥と腐葉土 河床に堆積

奥多摩川 環境悪化や観光事業に影響

都交通局が管理する白丸調整池ダム(奥多摩町)から放水された汚泥と腐葉土などが奥多摩川に堆積し、環境悪化や観光事業への懸念が出ている。想定を超えた汚泥が流れ出したもので、中でも水生生物への影響が心配だ。6月に解禁となるアユ釣りにも被害が出ている。

「水面から見ると河床が浅いと思っても実際はものすごく深いという場所もあるかもしれない」と、奥多摩川の水質調査を続ける「奥多摩川環境改善協議会」の代表理事、青木隆夫氏は、奥多摩川の水質悪化を懸念している。奥多摩川は、奥多摩川沿いの観光事業への影響が懸念されている。奥多摩川の水質悪化は、奥多摩川沿いの観光事業への影響が懸念されている。奥多摩川の水質悪化は、奥多摩川沿いの観光事業への影響が懸念されている。



底が見えた白丸調整池ダム

6月15日にアユ釣りが解禁となる多摩川では実害が出ている。同漁協は解禁に向け1550キのアユの成魚を放流する予定だったが、このうち500キを来年に延期した。迷惑をこうむるのはアユ釣りを楽しみにしてきた太公望たちだ。

水生生物への影響はまだ調査が行われておらず、把握できていないが、それなりの影響は懸念されている。同漁協のある組合員は「河川へ流入した堆積物は完全には取り除くことはできない状況なので、台風で漁場が洗われるのを待つしかない」と話す。



秋川6月1日、多摩川6月15日

太公望お待ちかね



多摩川でアユ釣りを楽しむ(昨年)

アユ解禁 江戸前鮎のそ上も期待

多摩川、秋川の本流などで6月、アユのは解禁を前に4000キのアユを放流。友釣りは6月1日から全域で解禁された。ただし、檜原地区の南秋川は資

源保護のため7月1日に解禁となる。奥多摩川に1050キのアユを放流。6月15日から解禁される。江戸前鮎のそ上も期待できるという。ただ、多摩川は冬期に行われた白丸調整池ダムの放水点検の影響で汚泥や腐葉土などが河川に流出したため、アユの生育に悪影響が予想される事態となっている。奥多摩川漁業協同組合では、放流予定の

「沿線まるごとホテル」レストランなど開業

青梅線沿線の活性化に期待

JR青梅線の沿線全体を宿泊施設に見立てた観光ビジネス「沿線まるごとホテル」の一部が5月16日、開業した。開業したのは鳩ノ巣駅近くの「Satologue Ome(サトログーおおめ)」。レストラン棟とサウナ棟で構成。古い木造家を改築したもので、里山のような屋外空間が備わっている。

「時帰路(TOKIRO)」と名付けられたレストラン棟は、シェフの駒ヶ嶺侑太さんと高波和基さんが、青梅、奥多摩ゆかりの食材を使って腕をふるい、フレンチベースの料理を提供する。開業を前に13日には内覧会が行われ、師岡公伸奥多摩市長、大勢待利明青梅市長、JR東日本執行役員の内田英志八王子支社長、青梅市観光協会の小澤徳郎会長らが駆け付け、開業に期待を寄せた。嶋田俊平社長は「私たちの施設やサービスがきっかけとなって、青梅線沿線が利用者にとつての『ふるさと』になることを願っている。この新しいふるさとづくりのムーブメントが全国に広がるモデルになれるよう事業に向き合っていきたい」と語った。



全体を築き上げるプロジェクト。同プロジェクトは、昨年の「第7回ジャパン・ツーリズム・アワード」の最高賞である国土交通大臣賞に選ばれている。

宿泊棟は24年度内に開業



沿線の首長らが駆け付け開業を祝った

◆身近な情報をお寄せください。◆地域の話題や出来事、政治や行政について考えることなど何でも構いません。西多摩の魅力や将来に残したい景色なども募集します。090(8460)9688岡村 okamura.nobuyoshi@gmail.com ◆◆◆